

## 取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和4年度
----	-------

## 前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

## 後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者を見守る体制づくり 見守りサポーター登録人数：286人 個別計画作成者数：217人 生活支援サポーター数：21人</li> <li>・ 生活支援サービスの体制整備 生活支援等サービス協議体：年2回開催</li> <li>・ 在宅医療・介護連携の推進 在宅医療・介護連携研修会：2回開催（1回は会場開催。1回はハイブリッド開催。） 医療・介護関係者64名が出席。</li> <li>・ 地域ケア会議の推進 地域ケア個別会議：5回開催 地域包括ケア推進会議：1回開催</li> </ul>
自己評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守りサポーター登録人数、生活支援サポーター数、個別計画作成者数</li> </ul> <p>【△】</p> <p>見守りサポーター登録人数は、前年度より10名増加しているが、目標値より少なかった。生活支援サポーター数は、ほぼ横ばいで目標値より少なかった。個別計画作成者数は、前年度より微減で目標値より少なかった。総合的に、増加している項目もあるものの目標値に達していない項目が多いことから「△」と評価した。</p>

- ・生活支援等サービス協議体開催回数

【△】

生活支援等サービス協議体は、2回の開催で市の取り組みや集いの場、他地域の取り組みなどの情報共有を行ったが、積極的な意見交換の場とはならなかったため「△」と評価した。

- ・在宅医療・介護連携研修会開催回数

【○】

グループワークを含む集合型研修を2回開催し計64名の参加があった。1回目は会場開催のみとしたが各職場の感染対策のため参加できない事業所があったため、2回目はハイブリッド開催とした。コロナ禍で講義形式の研修が多い中グループワークを実施したことで多職種間で顔のみえる関係づくりや意見交換ができ好評であったため、「○」と評価した。

- ・地域ケア個別会議開催回数、地域包括ケア推進会議開催回数

【○】

地域ケア個別会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から計画どおりに開催できなかったものの、前年度と比べ、感染対策をしながら5回会議を開催し、個別ケースの検討や地域課題の把握に努めることができた。また、地域包括ケア推進会議は、1回の開催と目標値に至らなかったが、前年度の書面会議に比べると、一堂に会して積極的な意見交換ができた。総合的に開催回数は、目標値に至らなかったものの、地域課題の把握や関係機関との積極的な意見交換により地域包括ケアシステムの強化につながったため「○」と評価した。

## 課題と対応策

- ・高齢者を見守る体制づくり

次年度も、地域での日常のゆるやかな見守り体制構築のため、研修会等を通じて見守りサポーターの登録人数、生活支援サポーター数及び個別計画作成者数が充実するように努める。

- ・生活支援サービスの体制整備

次年度は、地域のニーズの共有だけでなく、自分たちで取り組めることなどを積極的に考え、必要に応じて、関係機関との連携強化を図るために協議体を開催し、生活支援体制整備を推進する。

- ・在宅医療・介護連携の推進

感染対策が緩和されても高齢者を支援する医療・介護関係者対象の研修会や会議の開催はまだ完全に平常通りとはいかないが、コロナ禍特有の課題に対応するためにも平常時からの在宅医療・介護連携は欠かせないため、次年度も研修会を計画通り実施し、関係者の連

携を推進する。

- ・地域ケア会議の推進

次年度も地域ケア個別会議を定期的を開催し、多職種からの専門的見地から高齢者個々に対する支援に取り組むとともに地域課題の把握に努める。また、地域課題についての検討や必要な社会資源の開発や施策につなげられるよう地域包括ケア推進会議を開催し、地域包括ケアシステムの充実・強化を図る。